

砺波市総合計画審議会会議録

と き 平成27年3月17日(火)
午後3時～午後4時50分
ところ 砺波市役所大ホール

【出席者】

・総合計画審議会委員 20名

秋山委員、飯田敏雄委員、飯田良榮委員、池谷委員、伊藤委員、稲垣委員、江守委員、大井志緒美委員、大井千津子委員、大島委員、川岸委員、小森委員、舘委員、野村委員、船平委員、前田委員、松田委員、水木委員、三井委員、山森委員

・欠席委員 5名(佐野委員、島田委員、坪本委員、鍋谷委員、廣瀬委員)

・市 市長、副市長、教育長、企画総務部長、福祉市民部長、商工農林部長、建設水道部長、総合病院事務局長、教育委員会事務局長 (事務局 島田課長、河合、宮本)

【内 容】

・前田会長挨拶

本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。今回初めての方もいらっしゃるようなので、どうぞよろしく願います。

この数日、富山県自体新しい風が吹き出したと実感しております。こういう機会に総合計画のお話をさせていただけるということで、次の時代に対しての考え方を皆様からいただければと思います。

ちょうど総合計画に関しましては、平成19年から平成28年までということで、来年度新しい総合計画の策定に取りかかるという段取りになっております。また、夏野市政になりましたちょうど二年余りが経過いたしました。市の総合計画に基づいてさまざまな施策を積極的に取り組んでいただいております。皆様と一緒に総合計画に関わってきた者として大変喜ばしい思いであります。本日総合計画実施計画に基づいて作られました平成27年度の予算案に関しましても、市の方からのご説明を受け、またこれからの新しい総合計画の策定についても皆様とご審議させていただきたいと思っております。

・市長挨拶

本日は、お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。総合計画の後期計画ですが、あと二年間ということになります。私も市長に就任して二年ですが、この後期総合計画に基づいてメリハリをつけながら取り組んでまいりました。おかげさまで、この2年間ほぼ想定した形で進めさせていただいております。

この審議会でも新しい総合計画を作るわけですが、今、地方創生の関係で国の方から人口ビジョンというものと、地方版総合戦略というものを作ったらどうかという話をいただいております。若干期間のずれはありますが、総合計画とほぼ重なりますので、皆様の意見も含めて同時並行的に進めていこうという思いであります。本来の皆様の任期は今回で終わるのですが、新たな総合計画に向けてご意見をいただければと思います。

砺波市の人口について、他と比べて人口の減りが少ないというのは、いろいろな努力の成果ではないかと思っておりますので、そういうことも生かしながら、新しい総合計画を作っていきたいと思っておりますので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

・委嘱書交付（新規の方）・委員紹介・出席者紹介

委員任期平成 27 年 6 月 30 日まで

（会長による進行）

・事務局からの説明事項

- ① 砺波市総合計画のあらましについて説明。
- ② 砺波市総合計画後期計画第 4 年次実施計画について説明。
- ③ 後期計画の進捗状況について説明。
- ④ 平成 27 年度当初予算(案)の概要について説明。

・質疑

（前田会長）

ご質問、ご意見、また、説明が必要なところなどお願いできればと思います。

（委員）

三世同居推進事業について、同一敷地内に若い世帯が場所を確保して住まわれた場合はどうなるのか。この事業はあくまで家屋の中での同居なのか。

新しい土地に出て新しい土地を買うとかなりの費用がかかるので、同居のための大きい家の解体費用や建て替え費用の補助があればよいと思う。

（市）

砺波市の同居の定義につきましては、祖父母世代、親世代、子世代三世代が同居していることで、それぞれ片親の場合も含まれます。ただし同居の実態が必要となりますので、老人ホーム等に入居していらっしゃる、住民票上は同じ世帯でも実際には一緒に住んでいらっしゃらないという場合は対象外とさせていただきたいと思っております。同一敷地内の別宅に住んでいらっしゃる場合については、同居に含めていきたいと思っております。近居の場合までは含むことはできませんが、隣接する土地に土地を造成して、地番は違うけれども全く同一敷地内のような実態がある場合についても、同居とみなしていきたいと思っております。

（委員）

求婚生産プロジェクトについて、求婚生産とはどういうことなのか。

（市）

婚活応援事業であり、砺波市はチューリップの「球根生産」日本一の市ということで、「求婚」と「球根」という言葉をかけてあります。

婚活支援プロジェクトでは、結婚したくなるようなモデル結婚式を若い人が企画して、結

婚にあこがれを持っていただく。また結婚相談事業では、プロの相談員の方をお願いいたしまして、親御さんやご本人様に結婚に向けての相談をしていただく。婚活セミナーでは、若い方に数回セミナーに参加していただきまして、何回か顔を合わせることによって、友達になりカップルが誕生するチャンスが生まれるという機会を作る。

このような三つの事業を展開していきたいと考えております。

(委員)

チューリップの球根の出荷額は日本一ですが、組合員が減少してきていると聞いている。市長はオランダへ行って、ネット栽培の普及を唱えておられますが、ロボット推進事業というのは、いつ頃から行われる予定なのでしょうか。

(市)

今現在、県の事業で実施しております、実際オランダで機械を組み立てております。それに加えて国もロボット事業という新たな事業を始めまして、より操作をしやすいように進めております。

具体的には、8月に砺波でのテストを行いまして、秋から本格稼働する予定でございます。機械自体は、今まで手で植えていたところを全て機械で行うというもので、ネット栽培というのは、下のネットと上のネットで挟んで落していくというもので、球根を掘り起こす時にはネットごと一気に掘り起こせるというものです。そういったロボットを取り入れて、植え込みや掘り起こしの作業を楽にしていく予定で、具体的には1/10の作業になるものと思われまます。

(委員)

チューリップ公園の整備事業について、レイアウトなど現状で話せる範囲でご説明いただきたい。

(市)

検討中ではございますが、例えば北門の向きを若干変える、パノラマ展望台からの支障にならないようにチューリップタワーを移設する、園道を回りやすいように大花壇を整備するという計画がございます。

アンケート調査では、屋根付きの休憩施設を増設してほしいという意見もありました。また、ひょうたん池の排水対策としてもっと水はけのいいものにしてほしいという意見もありました。

公園内の眺望が良くなるように樹木の伐採・移植といったことも、計画の中では検討しております。

(前田会長)

まだご質問等あるかもしれませんが、次の第2次砺波市総合計画・地方版総合戦略の策定について、事務局から説明お願いいたします。

・事務局からの説明事項

① 第2次砺波市総合計画・地方版総合戦略の策定について

・質疑・意見交換

(前田会長)

今ご説明いただいた事項でご質問等ありますでしょうか。

前段の説明事項についてもご質問等ありましたらお願いいたします。

(市長)

今三つのものを作ると言いました。これから先の砺波市を考える際に、まず最初に人口をどうするか、次に国が「地方創生」と言っておりますので、行き当たりばったりではなく図案が必要だということで総合戦略というものを考える。他方で砺波市の総合計画が切れる時期なので、これから先の総合計画を考えていこうという三つの点でございます。

今までの日本は右肩上がりだったため、人口が増えます、歳入がたくさん入りますというバラ色の絵を描くことができましたが、もう描くことはできません。例えば、人口の総合計画を出したときに、あと10年で消滅するという自治体もあります。しっかりと目を見開いて計画を立てなさいという趣旨です。砺波市の場合は消滅市町村というものの中にはもちろん入ってはおりませんし、ガタガタになるというほどではない。ただ人口の問題についてはどんなふうになるか分かりません。また、今の人たちがそのまま住んでくれているという前提で考えるのも、おもしろ味がありませんので、例えば、頑張っって街づくりをしますからここに住んでいただくとか、住みよい施策を作りますからここに住んでいただくという、砺波市が生き残っていけるような計画を作ろうということです。

今までの総合計画というのは、将来のバラ色の夢を描くというものでしたが、今後は地道に足元を見て将来を考えるようにしましょうという話で、場合によっては痛みを伴うものが出たり、やめなくてはいけないことも出てくるかもしれません。次の委員の皆様は、厳しいものを作らなくてはいけないので大変かと思えます。

このスケジュール表も、最初に人口ビジョンを掲げてから、総合戦略を作り、合わせて総合計画を作るという計画になっております。組織の方も庁内の作業部会と市民参画の未来戦略の委員会ではいろいろな議論をしていただき、組織のトップの方ではなく実際に動いておられる方々に意見をいただいた上で、総合計画審議会の方はもう少し上の方々の幅広いご意見をいただければと考えております。

(前田会長)

ありがとうございます。今市長の方から説明をしていただきましたので、より鮮明にご理解いただけたかと思えます。

何かご質問等ございましたらお願いいたします。

(前田会長)

では私の方から質問させていただきますが、地方版総合戦略というものと総合計画を行き来しながら組み立てていくということが必要だと思うのですが、具体的に住み分けの調整を

庁内でしていくという形で考え方をまとめていくという内容なのでしょうか。

(市)

総合戦略と総合計画を作るに当たって、どういう住み分けをしていくかということでございますが、作る順序としては、人口ビジョンの方を先に作っていくことになると思います。それによって、人口の現状分析や将来の展望をまず見極め、そのあとに作る総合戦略というのは総合計画の中の人口減少対策や少子化対策に特化したものになるのではないかと考えております。

策定の方法や表現方法については、これから考えていかなくはなりません、一つの策定会議や委員会の中でテーマを決めたり、日によって区切ったり、会議の時間を分けて区切ったりと、今後詰めていきたいと思っております。

(委員)

人口減少については、ある程度シミュレーションできると思う。将来どうにもならなくなると、南砺市や小矢部市と合併するという話ではなく、今現在の人口対策ということについては、お金を生み出すというところ（働く場所）がないとだめだと思う。富山や高岡に働きに行くと砺波で働く場所がなければ、砺波は衰退していく。地方創生で都市集中ではなく地方に分散していく動きがあるわけですから、企業誘致や働く場所の確保ということをもっとスピード感をもってやらないといけないと思う。地方創生に関しては、交付金（バラマキ）が出てくると思うので全国的にすごい勢いで動いていると思う。私の会社にも全国から企業誘致の話が来る。他の自治体も必死に企業誘致を行っているので、漠然と行うのではなく、リサーチをして、砺波に縁のある東海となみ野会や東京となみ野会などに企業誘致を行えばよいのではないかと。

人口も企業もどんどん減っていくので、今までの第1次総合計画とこれからの第2次総合計画は全く変わると思う。これからの10年というのではなく、5年、7年単位で修正していかないといけないと思う。

(市)

国の掲げる地方創生の計画の中には、一番目に安定した雇用の創出というのが掲げられております。二番目は、移住・定住等、地方に新しい人の流れを作る。三番目は、若い世代の結婚・出産・子育てを支援する。四番目は、安全な暮らし・地域と地域の結びつき、連携を図っていくとなっております。この四つが基本目標ということで、総合戦略では雇用の創出ということを中心に柱としていきたいと思っております。

企業誘致につきましては、計画を作らず今すぐにでもできることですので、今できることに関しましては担当課において実施していきたいと思っております。ただ、総合戦略の中にも組み込んでいくわけですので、計画づくりに関してはしっかり進めていきたいと思っております。

その前提の人口ビジョンについては、砺波市の現在の人口ピラミッドから将来人口も推計できますので、どういう施策をしていけば出生率を増やせるかということや、高齢者が元気で長生きできるのかということを考えながら事業を考え、どうやったら人口減少を抑えることができるのか、将来展望を持って人口ビジョンを作りたいと思っております。

(委員)

地方創生に関して、国は一生懸命考えたところにはお金を出すという形だと力説している。砺波市の広報を見ている、人口はわずかに減少傾向にある。今日の新聞に出ていた連携中枢都市圏として考えるなど、試行錯誤の模索状態ではないかと思われる。

事業を一つどのように起こすか、そしてその事業で得たお金で若い人たちを雇用する。いろんなことが関連して少子化問題や三世帯同居につながると思う。

「もうひとつ上のとらえ」を具体的に実施していくためにはどうするのか。例えば空き家対策にしても、空き家を実際に使えるようにするにはしっかりやらないと、2・3年でつぶれてしまう。そこに永続的な考えを見いだせない。

まず働く場所を確保することが大事で、若い人が仕事を求めてやってきて仕事ができるようになったら、自然に人口対策もできるのでは。

(委員)

砺波は散居村がいいところなのに、空き家が増えて困っているのが現状。先日アズマダチの古民家レストランができたが、新しいものを作ったら市民が一度はそこへ行ってみるなど、市民が一生懸命に盛り上げていこうとする姿勢が大事なのではないか。市長が空き家を改造してお住みになると市民も空き家に関心を持つかもしれない。また、屋敷林管理などのお助け隊等を作って空き家や散居村を守っていかなくてはいけないと思う。

チューリップが減っているとのことだが、市民どの家にもチューリップを飾るとか親戚に買って贈るとか、市民でチューリップを大事にしていけばよいと思う。

水資源の再生エネルギーの予算が少ないが、事業としてダメなものならダメなものにお金はかけず、伸びるところにお金をかけていただきたい。

求婚生産プロジェクトに関して、若い人たちが婚活事業を盛り上げて、家庭を作って子供をたくさん生んで、人口増加につなげてほしい。

高齢者の立場で市に何ができると考えた場合、みんな一人一人が健康であればよいということ。そうすると介護や医療のお金が助かる。生きがいをもって元気であるために、高齢者が元気で楽しく運動したりおしゃべりしたり社会参加したりできる場がもっとあればよい。

(委員)

青少年対策事業として中学生国際交流に約200万の予算がついている。今までこの事業を続け、中学生をオランダに派遣して成果は現れているのか。

(市)

相互交流事業として全20回程度になると思います。具体例は難しいのですが、一緒に参加して、結婚されて外国に興味を持っていらっしゃる方がおられます。また、国際交流協会に参加いただいて、交流を続けていらっしゃるという例もございます。

(委員)

雇用や人口減少の問題に対しての提案ですが、砺波市出身の第一線で活躍している社会人の方と中学生時代に勉強会を開いたり、講演を聞く等の機会があれば自分の将来を真剣に考

えることができ、そのうちの何%かは都会に出ても将来砺波に帰ってきて事業を起こしたりしてくれるかもしれない。そうすれば砺波市の発展にもつながるし、東京等他の地域ともネットワークができるかもしれない。そのネットワークを使つての企業誘致の可能性もでてくる。10年続ければそれなりの結果が出るのではないか。

(委員)

人口対策として、若い人たちの生活圏が他市・他県に流れない施策を考える。例えば通勤・通学の助成をするなど。新幹線や高速バスで通勤・通学をして、金沢大学生でも生活は砺波でできるようにすればどうか。就職もこちらでできれば尚よいと思う。

結婚支援の施策として、空き家をリフォームしたところに住んでもらえるようにする等、若い人が結婚して転入した時に住める場所を安く提供する施策を考えていただきたい。地元の人に関しては、同一敷地内の別宅の支援ももちろんだが、嫁姑の関係もあるので、アパート等の別世帯でも、同じ砺波市内に住んでいれば、同居よりは低い助成でもよいので助成しあげて、砺波市内に残ってもらえる施策を考える。

子育てについて、男女共同参画のアンケートで一番多かったのが「子供が急に熱を出したりしたときに仕事を休めない」「男性が育児休暇を取りづらい」ということ。病後児保育の定員を増やすことも考えないといけないし、育児休暇を取れる企業に対して優遇税制の施策を支援するなどの子育てしやすい環境を拡充するという三つの意見を提案する。

(前田会長)

ありがとうございました。まだまだご意見はあるかと思いますが、時間となりました。市長さんの方から何かございますでしょうか。

(市長)

仕事を作るというお話ですが、砺波市には働く場所がないわけではなく有効求人倍率は、ここ2年間くらいはずっと1を超えております。また、正社員に限っても半年くらいは1を超えていて、企業が仕事を取ってきても従業員がいないという状態です。

水資源再生エネルギーについて、県が砺波市内で小水力発電を行っています。市でやろうとしていることは少しイメージが違うので、予算が小さいということをご理解いただきたいと思います。

工場誘致に関して、砺波市は農業投資をしているので大きな工場を誘致できる土地が少ないのです。スマートインターの北側と砺波インターの南側にまとまった土地があるので、縁のある企業や東海となみ野会のルートを通じた企業の誘致の他にも、県にもお願いして企業誘致の情報をいただきたいと思っております。

高齢者サロンについては、いろんな場所がありますのでもっと出かけて活用していただきたいと思います。今後は介護保険制度の中で、高齢者の方が介護する側に参加すれば自分が介護を受けるときにも制度を活用できるという方法を考えていこうと思っております。砺波市にはもともと一人一ボランティアという制度がありますが、その中でも介護の関係をどう位置づけていくか考えていきたいと思っております。ぜひ、高齢者の方には元気でがんばっていただきたいと思います。

中学生の国際交流に関して、この世代にとって海外でホームステイするというのはとても

インパクトのあることだと思います。その結果外国のエアラインの客室乗務員になった方もいますし、企業に入って英語を勉強している人もいます。いろいろな人の話を聞くのは大切なことで、学校では地元の企業の人の話を聞いたり先輩の話を聞いたりという機会はあると思います。先程の企画は面白いので、ぜひ第一線で活躍している方がいたら紹介していただきたいと思います。

生活圏を変えないような施策に関して言えば、もともと砺波の交通網は良い方だと思います。金沢や、県内はほぼ通える範囲にあると思います。

空き家の支援はあるのですが、あまり知られていないのもっと広げていきたいと考えております。空き家情報バンクもっと活用いただくとともに、農家レストランのように補助メニューをどんどん使っていただければと思います。

今ほどいただいたご意見等を今後の計画にも反映していきたいと思います。

(前田会長)

それでは、この辺で会議を終了させていただきます。ありがとうございました。

・事務局より連絡事項

本日のご意見は、新年度以降の予算編成、次期計画策定に反映していくよう検討してまいります。

時間の都合等により発言ができなかったご意見等があると思われるので、企画調整課までお寄せください。

また現在の委員構成での会議は今回をもって終了となります。二年間貴重なご意見を多数いただきありがとうございました。

・閉会

※当日、都合により欠席された委員よりのご意見

○新砺波市立図書館について

新図書館を核に砺波駅周辺を整備して、将来が懸念される城端線をソフトだけでなく、ハード面で具体的に支えるべきと思う。

市民だけでなく、城端線・高速バスの利用者、されには城端線沿線住民・学生をターゲットにした総合図書館とする。

散村地域研究所の併設を検討してもよいと思う。

○出町文教ゾーン（旧出町小学校跡地）の利用について

大規模災害に備えた空間として確保してはどうか。